

鈴木委員

まず、箱根の噴火レベル 2 についてですが、先ほどから何かこの書類によると、どうぞ安全ですからお集まりくださいという論理でずっと来ているんだが、自然というのは、いついかなるときにレベル 3 になるか分からないということをお忘れしてはならないと思うんです。

安全だからどうぞいらっしゃいとなったときに、箱根というところは御嶽山と違って首都圏の方が多くいらっしゃるが、その方たちをどのようにしていくのか。こういうことを、それはもう産業労働局の所管ではないから、話はしません。それに伴って、完璧に今のような雇用創出金ということだけで本当に済むのかという問題になっていく可能性がある。

レベル 3 になったときの危機管理というのは、どこにも書かれていないんですよね。これやります、あれやります、どんどん来てくださいみたいなことで本当にいいのかどうか。現実にはレベル 3 になる可能性もある。そういう中で少し緊張感を持ってしっかりこれは対応していただきたいというように要望しておきます。

今回頂いたプロジェクト編と計画推進を読ませていただきました。

私は、この中で総体的に聞きたいのは、例えばプロジェクト編の 14 ページの産業創出の中に、プロジェクトの狙って書いてありますが、活力向上だとか書いてありますが、それは、要するに、プロジェクトというのは、達成しなければならぬものに対して P D C A サイクルとかと同じように、究極はこの狙ったものを必ず達成するためのプロジェクトで、それに人とお金をかけることですよね。

そうすると、それを達成するためになぜこの 1、2、3 しかないのか。他にもっといっぱいあるのではないか。先ほどの産業労働局長の答弁とかすばらしい答弁でした。高齢者の雇用の創出みたいなのは、本来はここに入れなければいけないものだと思う。

こっちのもう一つの主要施策の方だと 14 ページに、中高年齢者の就業支援ということで、申し訳ないように書いてある。

私は少なくともこれは前回のグランドデザインと中身がそんなに変わらないと思う。

その中で、このプロジェクトが狙いとしたものがこの三つでなぜ達成されるのかということをお答えください。

狙いというのは書いてあるわけでしょう。当然、それに対する結果というのは求められるが、少なくとも 2015 年から 2018 年、こんなターゲットなんかあるわけじゃない。これをみんな見ていると、何も総括なんかないんだよ、認定しますというけど、どのようにやるんですか。要するに、このプロジェクトの狙いとしている成長産業を創出して育成して、地域経済の活力向上というのは何をもってやるのですか。私は見えてとっても腹立たしい。こんなの普通の企業なんかに出したら一発で飛ばされます。

プロジェクトというのは、それに向かって、マンパワーとコストをかけてやりますっていうのがあってプロジェクトなんです。それがこの中を見ている

と説明なんか何も無いではないですか。何をもってこの3つの柱をつくったのでしょうか。他にもっと柱にしなきゃならないものがあるのではないですか。

産業・観光部長

この総合計画の中でこのプロジェクトですが、県がこれから重点的に取り組むというものを23本掲げているところですが、特にその中で産業創出は、雇用も含めて全体の経済のエンジンを回す取組を主要施策に書いてあるように、事業も含めてトータルで取り組んでいくとありますが、その中でも特にこれだけはというところの重要な3本をこちらの方に象徴的な取組として集約をさせていただいて記載させていただいたところではあります。

鈴木委員

しっかりとしたものの中に入れておかないといけないと思う。素案の段階ではこれ以上言いませんけれど。

その中を見ていてその次のページ、15ページの1のところの海外進出に向けて県内中小企業の海外事業展開に向けた支援、神奈川インダストリアルパークの設置などと書いてあるが神奈川インダストリアルパークってどういうものですか。

国際ビジネス課長

これについては、県内中小企業のアンケート結果によりまして、製造企業ですが、今後、海外に出たいという進出先の人気はベトナムが非常に高かったです。それから、形としましては、貸工場で出たいという要望が強かったので、こういった要望を聞きまして、ベトナムに中小企業向けの貸工場の設置を行いました。民間事業者がつくった貸工場を活用しまして県内中小企業に入ってもらいまして、それに対して、私どもが進出前から進出後まで一貫した支援を行うという仕組みを構築しております。それを神奈川インダストリアルパークと称しております。

鈴木委員

要は、どういう区画でどんなものがあって、今、どれぐらい企業が入っているのか伺います。

国際ビジネス課長

現在建築中です。6月にまず1棟目ができます。これは5区画ございます。

その中で、今現在は、神奈川県内企業は1社内定しております。

鈴木委員

それでは神奈川インダストリアルパークではないのではないのですか。私は、普通の人が見たら、これは神奈川全部って思わないですよ。

要するに、神奈川インダストリアルパークっていうから、当然、これは広い工業団地があるんだろうが、今見ていると民間の方々がつくったものであるならば、当然、神奈川の人ばかりではないですよ。そうしてしまったら神奈川インダストリアルパークではないのではないのですか。

国際ビジネス課長

委員がおっしゃるとおり、非常に広い工業団地です。その中に貸し工場エリアというのがございます。そこに何棟か今後建設されていきます。その何棟か建設される中の何区画かに神奈川県内の中企業に入ってもらいまして、そのエリア内に入ってもらいますと、私どもが進出前から進出後も支援いたしま

す。そのエリア全体をインダストリアルパークという形で称させていただきます。

鈴木委員

支援ってどんな支援ですか。

国際ビジネス課長

また、県だけではなかなかできない部分がございますので、例えばジェトロ、それから横浜銀行、東京海上、それから、今回、人材派遣会社と協定を結びましたが、そういったところと連携しながら、例えば人材関係の支援あるいは資金関係の相談、それからリスクマネジメントの相談等と、進出前からよく検討していただくような形で私どもが進出される企業などお話をよく聞くということから始めまして、それから進出後も労務関係の情報提供、あるいは相談というような形で支援を考えています。

鈴木委員

お話は分かりましたが、そんなことをこの議会の中だけで言っただけで県民は分からないではないですか。今までしっかり聞いた中で、要はインダストリアルパークってその中の一部だと。

49 ページを見てみると、この中に海外展開とあって、海外企業の誘致件数の目標が書いてあって、現状 2014 年が 64 件で、2018 年が 92 件と書いてあるが、一体何が実態か分かりませんよ。

だから、あなた方のつくっているものは、企業に勤めてきた人間から見ると、責任感のない数字が出ていますよ。

先ほどの産業労働局長のお話だと、これできちんと固まったら雇用もひっくり返ってなんていうような話も出てくる。だが、この中のどこに書いてあるのか。

私は、素案の段階だからもうこれ以上言わないが、一つはとにかくこういう形でもってきちんと県民に分かるような形の数字で、そして何をやったらこうなるんだってというようなことをしっかりこの中に記述していただきたいと思います。

最後に、一つだけ聞かせてください。

これは偉そうに ICT って盛んに書いてあるが、この県庁の中で iPad を配った以外何をやったの。偉そうに IOT とか書いてあるんだよ。インターネットオブシングスとか。

産業振興課長がロボットのことおっしゃったが、ロボットそのものにしたって、今パルロとかっていうロボットは、機能の中で倒れ方が、寝てるのか、本当に倒れたのかっていうのは、もうこれは ICT で分かる時代が来ている。

ところが、雇用創出して、先ほどからものづくりとか何とかっていう ICT とかビッグデータとかかってめちゃくちゃに優秀なものを県庁が持ったって、これに対する活用なんかどこにも書いていない。何か医療か何かだけしか書いていない。

一体このプロジェクトって、展開するのは結構だが、時代の最先端をいかなければならない神奈川県庁がこういうふうな形でいいのかね。

私は一つ、この ICT についても課題として訴え申し上げたいと思います。

まず、産業労働局の中からこの ICT について、何らかのまた一つ記述をしていただきたいということをお願いして私の質問を終わります。